所属	リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻 修士課程	修了年度	平成 29 年度
氏名	岡田岳	指導教員 (主査)	山田 孝

論文題目

作業療法学生が持つ不安とその測定 ~作業療法養成校在校生への聴取と卒業生への学生時代の不安の検討~

本文概要

Objective: The purpose of this research is to extract the anxieties that students of occupational therapy have in the school life, and to clarify the month when those anxieties are likely to occur.

Methods: Before preparing the questionnaires, a survey with preliminary questionnaires for 44 students and 37 graduates were conducted, then, the 35 questionnaires used in this research based on the preliminary questionnaires was created, and survey with the questionnaires to the students and graduates was carried out.

Results: As the result, factors of the anxieties are found as following; (1) anxiety about friendship, (2) anxiety about events based on their own decision, and (3) anxiety about their academic achievement. Also, it became clear that the period easy to cause those anxieties was at the beginning of the school year and from the month before the regular examination to the end of the examination.

Discussions and Conclusions: As the provision for relieving the anxieties of students, by implementing small group works, it leads to improvement of communication and interaction skills and by planned introduction of individual interviews at the period when anxieties are likely to occur. Also, faculty members' active concern with students is important.

目的:近年,少子化と大学など高等教育機関の多様化による入学数の増加が重なったために、高等教育への入学が当然な時代に突入した. 一方で、中途退学者数の増加も問題となっている。先行研究では中途退学者の多くが不安を持つことも明らかになっている。しかし、現状では作業療法学生の不安に焦点を絞った研究はほとんどない。そこで、作業療法養成校在学生の学校生活における不安を抽出するとともに、これらの不安が生じやすい時期を明らかにすることを目的に調査研究を実施した。

方法: 不安を問うアンケートの作成のため,4年制養成校の在校生44名と同校の卒業生37名を対象に,無記名式のアンケートを実施した.収集されたアンケートの内容を作業療法士6名により KJ 法的手法により検討し,設問数35のアンケートを作成した.作成したアンケートを在校生と卒業生に実施した.

結果:アンケートを因子分析した結果,学生の不安因子として,①友人関係に対する不安,②自主的判断に基づく事象に対する不安,③ 学業の不安が高いことが解った。また,不安の詳細を検討するためにインタビューも実施し,内容を検討した。不安を生じやすい 時期は,年度初め,定期試験の1ヶ月前より試験終了時までであることが分かった。学年別に見ると1年生は,友人関係の不安,学 業に対する不安を前期に発生しやすく,2年生は,試験の1ヶ月前に学業に対する不安が発生しやすく,対人関係の不安も生じや すい。3年生は、学業、実習,他者との比較に対する不安が生じやすいことが解った。

考察:不安を軽減する対策として、小人数のグループワークなどを取り入れることで対人技能の向上につながり、不安が発生しやすい時期に個別面談などを計画的に取り入れ、教員から積極的に学生に関わることが重要だと考えられた.

結語: 本研究は、作業療法教育全体を反映したものとは言えず、今後、作成したアンケートの信頼性を高めていく必要があると思われる.